

令和8年1月23日(金)@県立長野図書館
書店と図書館がつなぐ未来の読者 in 長野
まちの本やさんと図書館が一緒にできること

「やま読」の今とこれから ～先行する連携事例に学ぶ～ 図書館・行政の立場から

山梨県立図書館 総務企画課企画振興担当
副主査 丸山直也
(やまなし読書活動促進事業実行委員会 書記補佐)

01. 自己紹介・図書館紹介

- ▶ 経歴:2011年司書職採用。2021年に教育委員会でやま読担当の一人に。2022年県立図書館へ戻り4年目。
- ▶ 県立図書館:2012年新館開館、阿刀田高館長就任。来館者約90万人/年
- ▶ 公共図書館数:人口あたりの図書館数日本一。
- ▶ 学校図書館:司書配置率100%、学校図書館図書標準も高水準。

02. 図書館・行政の立場から

- ▶ 事業はどのように始まったのか。
- ▶ 実行委員会:書店・図書館・行政・出版社・大学など(97回以上開催、無償)
- ▶ 行政視点の課題:事業継続のために。県域での取り組み。若い世代の参画。
- ▶ 図書館の課題:図書館の現在とこれから

03. 山梨県の書店について

- ▶ 歴史のある書店:朗月堂(1902)、春光堂(1918)、徴古堂(1872)、柳正堂(1854)など
- ▶ 外からみた書店:個性豊か、良好な関係性、独立系とチェーン店が協力、事業も共有。
- ▶ データで見る書店の推移:書店数、書籍販売額。
- ▶ 書店の課題:12年続けても書店売上への直接効果を断言できない。

04. やま読の成果と展望

【目に見えない成果】

- ▶ つながりの創出:大学生×公共図書館、大学生×書店、公共図書館×書店、書店×書店。
- ▶ 相互理解の深化:書店が図書館研修に参加、図書館が書店イベントに参加。
- ▶ 認知度向上:やま読参加による外部イベント出展。
- ▶ 書店のメリット:公共性の信頼感。つながりによる小規模書店への支援。
- ▶ 応援の機運:「書店を買い支えたい」という声が多数(アンケートより)

【今後の展望】

- ▶ 私の役割:事業に対しての愛着を持つ人を増やすために。やま読のファン＝”やま読関係人口”を増やす
- ▶ 継続の価値:「続けること」そのものが意味を持つ。
- ▶ 各地での取り組みの萌芽:阿刀田館長の願い。

是非各地域の取り組みを共有し、みんなで未来の読者のために一緒に考えていきましょう！